

やすらぎ

2024.6

June

Vol.94



今別町 「荒馬まつり」

青森県の無形民俗文化財に指定されている今別町の伝統芸能「荒馬^{あぶま}」。地区ごとに跳ね方に違いがあり、それぞれの地区名を取り「今別荒馬」「大川平荒馬」「二股荒馬」に大別される。現在、町内の各地区で受け継がれているが、その歴史は江戸時代に遡る。

一説では松前街道沿いの今別荒馬は、江戸時代の参勤交代で松前藩の殿様が海を渡って松前街道を通った際の軍馬の勇壮さを表し、内陸の大川平荒馬と二股荒馬は、農耕馬を表現。軍馬である今別荒馬が、やがて農耕馬である大川平荒馬、二股荒馬と交わり、田植えが終わり田の神が天に昇る時、農民が神に感謝を表す「神送り」「サナブリ」行事として、継承されてきたという。毎年夏に行われている荒馬まつり。今年は8月3日、津軽海峡を望む海峡さざなみ公園で合同運行が行われ、フィナーレには花火が打ち上げられる。

馬役の男性と手綱取りの女性が男女ペアとなつて荒々しく跳ね回り、短い夏を全力で駆け抜けるような激しい祭り。男女ペアで行われる伝統芸能は全国的にも珍しく、2人の息が合わなければ綺麗に跳ねることができないため、荒馬が縁で結婚したカップルも多く、縁結びの祭りでもある。

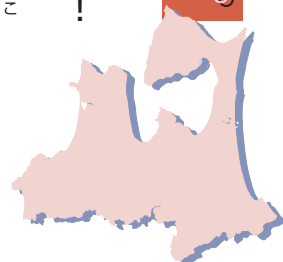
荒馬まつりの最大の魅力は郷土芸能に誰でも参加できること。開催期間中には、全国から荒馬ファンが駆け付け、小さな町が大勢の人で賑わう。

今年の夏は今別で「荒馬」祭りに参加してみてはどうだろう。

やりたいことがあったら、自分で一步を踏み出して！

「はいから食堂」を経営し
「Rokkasho青空マーケット」を主催する

あいさが
逢坂 喜多子 さん(65歳)



六ヶ所村の漁師街・泊地区。ここに、はいからなお母さんが58歳で起業した食堂がある。その名も「はいから食堂」。店内は、懐かしい雑貨が並ぶレトロな雰囲気、古い布を使って自ラリメイクしたバッグや服などを販売する「蔵布人えにし堂」を併設。

年に一度「Rokkasho青空マーケット」も主催している。店主の逢坂喜多子さんは、地元・泊地区生まれ。高校を卒業後、東京で企業の社員食堂を運営する会社に勤め、調理師免許を取得。首都圏にある企業の社員食堂で調理師として働いた。

5年ほど勤めたのち、商売をしていた

実家に戻らなければならなくなりUターンし、夫婦で働いた。

「私は35年間、勤めましたね。でも、

実家だろうと会社だろうと、いつか仕事は辞めなければなら

ない時が来る。家族経営でも雇われてい

たら自分のやりたいことが全て通るわけ

ではないしね。何かを企画したり、アイ

デアを出すのが好きだから、ずっと独立

したいと思っていま

した。年齢なんか関

係ないんです、とにかく『やりたい』という気持ちがあるうちに起業しようと思って」と明かす。

自分に何ができるか考えた時、真つ先に思い浮かんだのが調理だった。数年前に親戚から購入した空き店舗を、家族も巻き込んで改装し、7年前に食堂を開いた。

「本当はカフェ食堂を目指して始めたんです。でも世の中の流行が、六ヶ所村で通じるとは限らない。この土地では求められていないものが違ったんです。

お客さんはみんなラーメン無いの？っていうから自分が気に入っているラーメン屋さんの味に近づけるよう試作を重ね、2年目から提供しました。でもちよつとおしゃれ感を出したくて、器や盛り付けを工夫したんですよ」と笑う。

井ものを求めるお客さん向けには「どこの食堂にもあるものと同じにしたいくなくて、ご飯の上には生野菜を敷き、柔らかい県産豚ばら肉を焼いたものを乗せ

た、豚バラ丼を考案しました」と話す。

おすすめメニューはスパイシーなカレー。日替わり定食は、春には山菜を使ったもの、初夏には生ウニ、12月の鮑の解禁時には特別に鮑の料理も登場する。

「何を食べてもおいしいと言われたらいいと思う。素材はなるべく県産のものを使得て」とこだわりを見せる。軌道に乗るまで3年かかったというが「何十年経っても食堂での仕事の仕方は忘れていなかった。

今でも天候には左右されるけど、コロナによるテイクアウトが、うちにはよかった。今独立して、自分のやりたいことを自由にやれる喜びは大きいですね」と胸を張る。

お客は、村外から仕事で村に來ている常連さんや、地元の人、中高生。半分の量を半分の値段で提供して喜ばれたり、年金をもらったら大きなエビフライ定食を食べに來てくれるお年寄りグループまで様々だ。

そして、自分自身の好きという思いから始まった古い布を使ったりメイクは、漁師さんから譲られた大漁旗を使ったり、ユニークなデザインにしたり。

「ハンドメイドのものを販売するクラフトイベントに行くのが好きだったの。でも六ヶ所村に無いって気づいて、じゃあ開いちゃおうって始めたのが

Rokkasho青空マーケット。六ヶ所所で楽しいことを探そう、なかつたら自分たちで作ろうをテーマに尾駁レイクサイドパークで開催したら、ハンドメイドの作家さんから、飲食、占い、マッサージまで40ものブースを出店できた」という。

「村内には、いろんなことに興味を持って取り組んでいる人がいるのに、結構恥ずかしがり屋が多い。だけど、やりたいことがあつたら一步を踏み出して欲しいんです。一緒にやりましょうよ！幾つになっても好きな仕事ができているのは幸せなことだと思ふ。できる範囲で無理をせず、地域で求められるものをヨボヨボになつてもやっていたい(笑)。生涯、人と関わり、刺激を貰いながら、自分らしくいつまでも現役でありたいな」と将来を語った。



Rokkasho青空マーケット。六ヶ所所で楽しいことを探そう、なかつたら自分たちで作ろうをテーマに尾駁レイクサイドパークで開催したら、ハンドメイドの作家さんから、飲食、占い、マッサージまで40ものブースを出店できた」という。

「村内には、いろんなことに興味を持って取り組んでいる人がいるのに、結構恥ずかしがり屋が多い。だけど、やりたいことがあつたら一步を踏み出して欲しいんです。一緒にやりましょうよ！幾つになっても好きな仕事ができているのは幸せなことだと思ふ。できる範囲で無理をせず、地域で求められるものをヨボヨボになつてもやっていたい(笑)。生涯、人と関わり、刺激を貰いながら、自分らしくいつまでも現役でありたいな」と将来を語った。



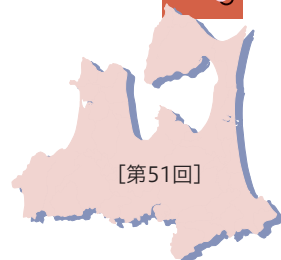
清水典子の

見つけた！あまもり人。

びと

生かされた命を活かしたい

「キッチンさとみん」オーナー 山形 里美さん（五所川原市出身）



「カラシアンアイスという名前に青森県出身の方々が磁石に引きつけられるみたいになんと集まってくれます。下北半島です、七戸です、小泊出身ですつて。不思議でしょう、あきる野市にこんなに青森県人がいるのかしらと驚きました」とチャーミングな笑顔を見せる里美さん。

キッチンカー「キッチンさとみん」を2023年5月、開業した。あきる野市にある「JA

秋川ファーマーズセンター」を拠点にし、声がかかると八王子市や檜原村などのマルシェに参加する。

出身地は旧小泊村。18歳から30歳まで東京でOLをし、その後は五所川原市で暮らし、3人の子育て、五所川原市のファミリーサポートセンターのメンバーとして活動を行うなどしていた。そんな暮らしに転機が訪れた。友人に誘われてたまたま受けた検診で乳がんが見つかった。幼少期に父を、23歳で母をがんで亡くしている里美さんは自分も死ぬのかと身構えた。そのさなか、知人が東京にある、がん研有明病院を紹介してくれた。両親も応援してくれるに違いないと考え、東京で摘出手術を受けることに決めた。

「東京で手術を受け、がんサバイバーとなりま

した。この闘病をきっかけに、継続治療もあったので東京にとどまりました。八王子の学童保育で放課後児童指導員として働くなどしていましたが、60歳で何か始めたいという夢をあきらめてきました」

カラシアンアイスの屋台を開きたい。それが里美さんの夢だった。だが東京で屋台は難しく、キッチンカーでならできると分かった。ためらう里美さんに、3人の子どもたちが背中を押した。せっかく生かされた命なのだから好きなことをすればいいよとキッチンカーをプレゼントしてくれた。がんの手術からちょうど10年目、がんも寛解となった時だった。

カラシアンアイスでスタートを切った「キッチンさとみん」はSNS、口コミで人気となった。あきる野市の夏祭りに出店が決まり、満を持して作ったのが「リングあめ」。真っ赤な着

色料でごまかすのではなく、おいしいリングゴを使って作りたいと、五所川原市の知り合いから低農薬、有機栽培のリングゴを送ってもらい、水と砂糖、ハーブティーでリングゴあめに仕上げた。購入者からは「リングゴあめの概念が変わった」「真っ赤なリングゴあめと違って、リングゴそのもののおいしい」と好評を得て、秋祭りでは560個のリングゴを全部リングゴあめにして販売し、一日で完売。朝からキッチンカーの前に行列が絶えることがなかったという。一口アツプルパイやリングゴ入りチーズケーキも人気商品になっている。

そんな里美さんのもうひとつの夢は故郷五所川原にみんなが集まれる場所を作ること。一人暮らしのお年寄りや子どもたちなどが気軽に集い、言葉を交わしあえる場を作ることができた。

「60歳を過ぎてから、いつばい夢ができました。たくさんの方たち、がんを通じて知り合ったがん友達、子どもたち、みんなに支えてもらって今があります。妙な言い方ですが、がんがラッキーを運んで来てくれたように思います。これからは夢に向かって頑張るつもり」。思いを語る里美さんはキラキラとまぶしかった。

ホットタイム

弘前を舞台にした小説

『桜のまち 風花茶房』を2013年から18年にかけて弘前の同人誌に連載していたことがある。小説の中で、登場人物の1人、咲世子さんがガーデンで育てた実を使ってお茶やジャムを作り、喫茶店「風花茶房」に届けていたのだが、その咲世子さんの作っていたお茶を実際に作るうと思いついた。お茶の材料は、かつてマタギが疲れた時に食していたという山の実り「ガマズミ」。神ツ実が語源といわれ、神からの賜りものとして珍重されていたものだ。お茶にしてみると、鮮やかなルビー色と爽やかな酸味が持ち味。食品衛生責任者の資格を取り、菓子製造業の認可を受け、手作業でコツコツと。ガマズミ茶と茶果のセットを『桜のまち 風花茶房』と名づけ、販売に向け疾走中。地域にはまだまだ、たくさんのお宝物が眠っている。

（清水典子）





六旬館



街角インタビュー



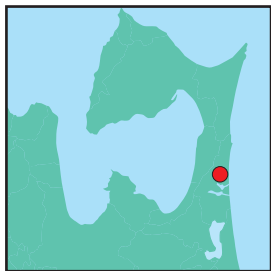
ぼんてん山



タタミ岩



六ヶ所村立郷土館



[六ヶ所村]

市町村めぐり

下北半島の付け根、6つの湖沼と太平洋の水景のまち・六ヶ所村は総面積253平方キロメートル、人口約9600人。南は小川原湖、東は太平洋に面し、尾駁沼、鷹架沼、小川原湖は淡水と海水が入り交じる汽水湖、市柳沼、田面木、内沼は淡水湖で、多様な動植物が生息する希少生物の楽園となっている。戦後、大規模な入植により県内でも有数の酪農地帯が形成され、やがて新全国総合開発計画による、むつ小川原開発の中心となった。昭和60年には、日本初の国家石油備蓄基地が完成、原子燃料サイクルの中心を担う各種施設の運転と建設が進み、国際核融合エネルギー研究センターも開設されている。

村の特産品販売所「六旬館」には、海産物や採れたての農産物スイーツなど、おいしいものが揃う。村民に愛されている「ほんてん山」からの眺望は素晴らしい。左に太平洋、右に陸奥湾が一望でき、石油備蓄基地、太陽光風力発電施設など、化石燃料から自然エネルギーの施設まで展望できる。泊地区の海岸には、タタミ岩があり、周辺には、岩の裂け目から突然潮が吹き上がる「ポットアゲ」アニメキヤラのシルエットに似た岩穴「弥次郎穴」も美しい。郷土館には、縄文時代の歴史と弥生時代の集落遺跡など、貴重な遺物が展示されているほか、海岸や森林鉄道ツアー、体験教室など、趣向を凝らしたイベントが注目を集めている。



地域おこし協力隊

中田 創さん(38)

茨城県龍ヶ崎市出身で会社員時代に六ヶ所村と御縁を頂き、その後プロジェクトで出会った地元の漁師さんと意気投合し、水産会社を立ち上げました。専門は六次化の特産品開発やシティブロモーションです。そのノウハウを生かし、ふるさと納税の中間管理業務を担えないかと考え、地域おこし協力隊という制度を活かし昨年4月に移住しました。現在、六ヶ所村のふるさと納税を広める仕事をしています。人が温かく、優しく、何より米、野菜、魚、肉、牛乳などが信じられないほどおいしい六ヶ所村。夢は青森の水産業を盛り上げるため、漁業を海業に発展させ、漁師の魅力発信と可能性を最大限に広めること。技術や販路構造を工夫し、生産者へ儲かるという構造を作り、地域を代表する商社になりたい。青森の魚はうちにお任せください！みたいなならいいな、と思っています。



六ヶ所村立郷土館

鈴木 浩館長(66)

旧平沼小学校の最後の校長を務めたのち、郷土館に勤めて7年になります。郷土館は、約1万年にわたる縄文の歴史を体験できるのが最大の魅力。ジオラマや土器、ヒスイなどスリと見学した後、手形、土面、土器、土偶、勾玉作りなど挑戦してみませんか？入館料も体験も無料です。講師を招いて行う南部せんべいの焼き、くじら餅作り、スタンディングラップ作りは、材料費のみいただいています。黒曜石のストラップ作りは、一番人気で、季節ごとにトレーニングツアーも開催しています。これからも、六ヶ所村の魅力を発信、発見、発信していきたいと思っています。六ヶ所村は遺跡だらけなので歴史好きにはたまらない場所。高山植物が平地で見られる貴重な動植物の宝庫です。ぜひ一度、遊びに来てください！

特集

おらばか 番

絶景を探しに、今別町へ行こう。

美しい奇岩、怪岩が

大自然の造形美を織りなす、今別町の高野崎。

晴れた日、灯台から、果てしなく青い海を眺めると、

左に龍飛崎、中央に北海道、右に仏ヶ浦まで

絶景を眺めることができます。

今年の夏は今別町へ、

さあ、出かけて見ませんか！

たかのさき
【高野崎】



高野崎から見た漁火

高野崎から毎年7月から8月にかけて見られる、イカ漁の漁火



高野崎にある2つの橋

高野崎灯台から岩場を結ぶ「潮騒橋」と「渚橋」



い がまさき
鑄釜崎キャンプ場

ほるつき
褒月海岸に面した緑の芝生が美しいキャンプ場



健康

90

自己愛性パーソナリティ障害

理想の自分を実現するため、自らの成功を誇張し、非を認めない行動がみられるため、本人よりもまわりの人が困ってしまう病気が自己愛性パーソナリティ障害です。

具体的には、ありのままの自分を愛することができず、自分は優れていて素晴らしく特別で偉大な存在でなければならぬと思いつ込んでいるため、自分を過信し他者を軽視する考えを持ち、自己中心的な言動や振る舞いをします。



損得や利害関係に神経質で、まわりからの評価に強く固執。その一方で傷つきやすく、臆病とも言えるようです。

その原因の一つとしては、過酷な幼少期を過ごしたり、愛情不足で育つたためと言われています。

人は子どもの頃、人格の基盤が作られます。褒められ、認められる経験を通してアイデンティティを確立していきます。しかし、これがうまくいかないと、人は自分を認められなくなり自信を喪失します。そして、その自信の無さを埋めるように、必要以上に他者と比較して、うぬぼれていくのです。アイデンティティが曖昧だから、まわりに、お金、評価、注目など、いろいろなものを求めてしまうのです。



その治療は、難しいとも言われています。それは自己愛性パーソナリティ障害を持つ人は、なかなか自分を障害者だと認めません。そして障害は突然起こるのではなく慢性化しているため、自らの考えを変えることが難しいからです。

最善の治療方法は、自分の偏った性格を自覚し、良いカウンセラーと出会い、弱さを認める事が出来るようになることだそうです。それにより、自らを自覚し、他者と比較することなく、ありのままの自分を受け入れることができるようになるのです。

もしも会社や同じコミュニティ、家族の中にそのような方がいると、対応に困ってしまうのが現実です。

対処の具体例をあげると「言い訳が多く自分の非を認められない」という症状に周囲が困っている場合、具体的にどんな内容の仕事をいつまでに必要なのか明確にし、文書化しておくのが一番です。そして、言い訳や責任転嫁などのトラブルを防ぐため、複数人での対応を心がけましょう。これはお互いの精神的な負担軽減にも役立ちます。そして、自己愛性パーソナリティ障害を持つ人には、冷たくしたり素っ気なくなったりしないことも重要です。

自己愛性パーソナリティ障害を持つ人は、自分を守るために高圧的な態度を取ることがあります。そんな症状がハラスメント問題となっている場合は、第三者に相談しましょう。



自己愛性パーソナリティ障害を持つ人と向き合うには、大きなエネルギーが必要です。まずは勤務先に相談し、専門医からアドバイスを受けるのがいいでしょう。

自己愛性パーソナリティ障害を持つ人から攻撃対象にされないよう、お互いの心を守るためにも、事前に対応を協議しておくのもおすすめです。そして、安易な共感は避けて、温かく見守り、医療機関への受診を勧めることが大切です。



あいちゃんの読んで得だね!

今回「やすらぎ」の取材で訪れた六ヶ所村と今別町のおき情報をお届けします。

「たのしむべ! フェスティバル」へ行こう!

《六ヶ所村》

美しい花火とサウンドが共演する、六ヶ所村の夏のイベント「たのしむべ! フェスティバル」が今年も8月24日(土)・25日(日)の2日間、尾駈沼沿いにある尾駈レイクサイドパークで開催されます。

ステージでは、お笑いステージショーや、バンド演奏、地元の子どもたちによるパフォーマンスが披露されるほか、特設会場では、ご当地グルメなどの出店が並びます。

最大の見どころは、初日の夜に開催される花火大会! 花火に合わせた音楽が素晴らしい花火の雰囲気をもさらに盛り上げてくれます。また、花火を公園の対岸から打ち上げることで、尾駈沼の水面に映る花火も楽しむことができますよ。そして公園がとても広いので、それぞれが好きな角度や場所から眺めるのも魅力です。水辺の景色とイベントや出店を楽しむに、ぜひ訪れてみませんか!!



■お問い合わせ
(一社)六ヶ所村観光協会(特産品販売所六句館内)
TEL : 0175-71-3115

おいしいものがいっぱい!
「いまべつ秋まつり」

《今別町》

四季折々に祭りがある今別町。なかでも10月20日(日)いまべつ総合体育館お祭り広場で開催される「いまべつ秋まつり」は、町の特産品や秋の味覚を堪能できる特別なイベントです。

特産品の販売エリアで行われる「いまべつ牛」のバーベキューや、「いまべつ牛」がたっぷり入った具だくさんの牛鍋は、毎年大人気! ステージでは、今別を代表する伝統芸能の「荒馬」、ゲストによる歌や手踊りなども披露されます。

今別の味やステージショーなど、今別ならではの魅力を思う存分楽しんでみませんか!!



■お問い合わせ
今別町役場産業建設課
TEL : 0174-35-3005



今別町の牧場で育った、いのしし肉の加工品は、ハンバーグ、ソーセージなど、野趣あふれる旨さですよ。



♡海産物は、「とろろ昆布」「塩わかめ」「海水塩こんぶ」などいろいろ。「もずくうどん」はお土産にぴったり。



今別町がラベルになった万能調味料「アウトドアスパイスほりにし」も人気だそうです。



《六ヶ所村》

♡六ヶ所村では、おいしいものを求めて、特産品販売所「六ヶ所館」へ。明るく広々とした館内に入ると、目に飛び込んできたのは、採れたての新鮮野菜！ゴボウと長芋は信じられないくらい鮮度抜群で、とってもリーズナブルでした。



六ヶ所産のゴボウを使った商品も豊富で「ごぼうあられ」は、とまらないお

いしさ！「ディップソース」「ドレッシング」も試してみたい。六ヶ所産のニンジンで作ったジュースはフルーティー。ブルーベリージュースやジャムもおすすめです。



♡「六ヶ所館」には海の幸もいろいろ揃っているんです。泊地区の磯浜で採れる「昆布」と「ふのり」は、香りも旨味も抜群。



海の恵みを生かした加工品は、市町村めぐりで紹介した地域おこし協力隊中田創さんが、地元の漁師さんとタッグを組んで開発した「漁師のタコつくね」がおいしい。ひらめの漬井やメバルも人気です。



♡そして六ヶ所村といえば本格長芋焼酎「六趣」が有名。地元の長芋から作った希少な焼酎は、まろやかで、ほのかな甘みが魅力です。純米酒「六馬」や「ワイン」もぜひ！



♡そしてここでは、スイーツも充実しているんです。「六趣」のもろみを使った「もろみバイクドチーズケーキ」はとっても濃厚。



ほかにも、ブルーベリーで作ったシュークリームや大福、お酒に合うスイーツ「クエラピス」、地元で昔から人気のウニで作った和菓子など、迷っちゃう程です。



♡ランチタイムは、今回あおり人で紹介した「はいから食堂」へ。カツカレー、ラーメン、山菜パスタなど、ボリューム満点のカフェごはんでした。



あいちゃんのほのぼのコーナー

— アラ! まあ! 今別町! の巻 —

♡ 取材こぼれ話



《今別町》

♡ 津軽半島の北端、津軽海峡に面した今別町には、海と山の恵みがいっぱい! ということで、道の駅いまべつ半島プラザアスクルへ。「いまべつ牛ステーキ」は希少な黒毛和牛。脂身のバランスが絶妙で、とっても柔らかくてジューシーでした。



「いまべつ牛焼肉定食」は、いまべつ牛をリーズナブルに味わえる一品。深い味わいに、ご飯が止まらない〜。



「サーモン丼」は、津軽海峡の潮流で育まれた、あっさりした味わいと、しっかりした食感が美味。生、炙り、漬けと、食べ比べができるのも嬉しいですね。



「あらまラーメン」は、味噌ラーメンに、いまべつ牛をトッピングしたボリューム満点のラーメン。ゴロンとした、いまべつ牛と味噌のコクがベストマッチです。



「いのししヘルシー丼」は、今別町のいのしし肉を使った丼。控えめな脂身がヘルシーで、肉の旨みがご飯にしみておいしい〜!



♡ お土産も、道の駅いまべつで。「いまべつ牛」はサーロインステーキ、焼肉、カルビが、冷凍で販売されていました。



くみあい 情報板

令和6年度一般会計予算

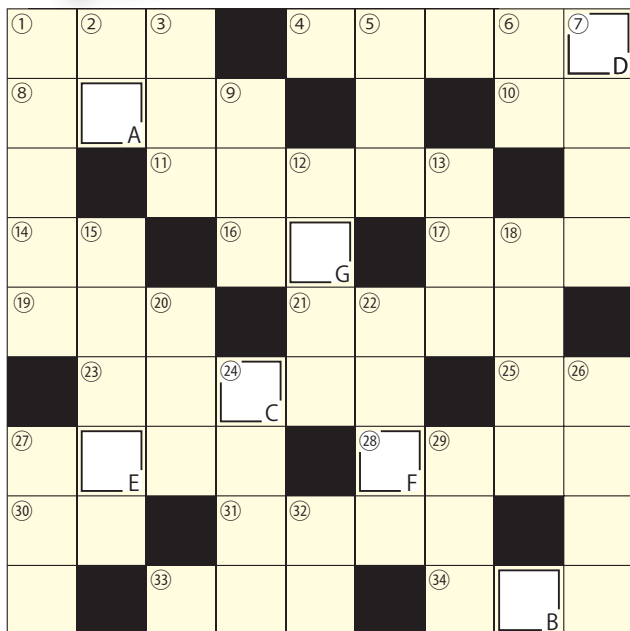
歳入	負担金	5,545,823
	財産収入	166,387
	繰入金	800,000
	繰越金	1,000
	諸収入外	762
	計	6,513,972
(千円)		

歳出	議会費	712
	総務費	75,403
	給付費	6,436,360
	予備費外	1,497
	計	6,513,972
(千円)		

組合ホームページをご利用ください <https://aomori-taite.jp>

(主な内容/お知らせ・概要・例規集・様式・事務の手引・試算・構成団体決算状況・組合回報誌「やすらぎ」・リンク集)

あいちんの クロスワードパズル



パズル制作：エッグハウス

□の中の文字をABC順に並べると、ある言葉ができます。(ヒントは「やすらぎ」の中にあります)

はがきにクロスワードの答えと、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、所属市町村名、「やすらぎ」へのご意見、ご感想、メッセージを添えて、〒030-0812 青森市堤町2丁目1-1青森県市町村職員退職手当組合「やすらぎ」編集室までお送り下さい。正解者10名様に抽選で素敵なプレゼントを差し上げます。締切／2024年7月末日消印有効

〈タテのカギ〉

1.今別町には北海道新幹線の「〇〇〇〇〇いまべつ駅」があります。 2.確かではなく、ぼんやりと覚えていることを「〇〇覚え」といいます。 3.甘味をメインに濃い味に仕上げた、漢字で「旨煮」と書く料理。 5.六ヶ所村はこの国にあるヴァーレン市と友好都市協定を結んでいます。 6.上(うえ)の反対。 7.♪雪よ岩よ我が宿り♪で始まる歌は「〇〇〇〇讃歌」。 9.寒い冬の朝、軒下に垂れ下がっている氷の棒。 12.運転〇〇〇〇、〇〇〇〇皆伝。 13.オーストラリアに生息する、ユーカリの葉が主食の可愛い動物。 15.「水泳」を英語でいうと？ 18.外国人が日本へやってくる。 20.軽い捻挫みたいだから、〇〇〇〇葉を貼っておこう。 22.「〇〇〇〇巻き」は、酢飯を海苔で巻いて、その上にネタをのせた寿司。 24.青森県と秋田県にまたがる世界自然遺産、〇〇〇〇山地。 26.コレをひねると水道から水が出てきます。 27.トランプなどで、各人が手に持っているカードのこと。 29.英語で「底」の意味。下半身に着る服を〇〇〇〇などといいます。 32.この動物に由来した名を持つ6つの村が集まり、六ヶ所村となりました。

〈ヨコのカギ〉

1.青森県を北端に、東北地方を南北に走る〇〇〇〇山脈。 4.ワインを日本語でいうと？ 8.六ヶ所村の花はニッコウキスゲ、鳥はオジロワシですが、村の木は何でしょう。 10.華敵、白糸、ナイアガラといえど？ 11.♪笑うと負けよ あっぴがっ！ この遊びは何？ 14.家庭用は、プロパンと都市の2種類です。 16.たまご。産〇〇、〇〇黄、有精〇〇。 17.今別町の伝統芸能「〇〇〇」は、青森県の無形民俗文化財に指定されています。 19.内容がよく似ている、同じようなジャンルの雑誌。 21.自分の品位を誇り、保とうとする心の持ちよう。「彼女は〇〇〇〇が高い」。 23.使命、任務。ゲームで〇〇〇〇〇をクリアする。 25.雨上がりの空にかかる七色の橋。 27.寿司と並んで人気の高い日本食。つゆや塩で食べるのが一般的。 28.今別町で栽培されている「一球入魂〇〇〇〇」は、うま味が凝縮され糖度が高いのが特徴です。 30.地域によって「テッポウ」や「フク」などと呼ばれる高級魚。 31.3、2、1、0と〇〇〇〇ダウン！ 33.波が寄せてくるまでのあいだ、〇〇〇に漂う小舟。 34.口数が少なく、あまりしゃべらないこと。

前回パズルの当選者

厳正な抽選の結果、次の10名様が当選しました。おめでとうございます。
(応募数141名)

〈前回パズルの解答〉

かいきょうのゆ

〈所属市町村等名・氏名〉

五所川原市	今	智 祐	東 通	村 石 田	馨
五所川原市	田 村	優美子	南 部 町	小野寺 明 美	
十和田市	程 川	和 徳	南 部 町	小 坂 壮 大	
つがる市	黒 滝	滯 華	一部事務組合下北広域センター	松 井 理 紗	
外ヶ浜町	木 村	学	八戸地域広域市町村圏事務組合	細 越 健 司	